



平素より医療関係者・介護関係者のみなさまには、若松在宅医療・介護連携支援センター（以下、当センター）の事業にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

【研修会のご報告】



3月16日に令和4年度若松区多職種連携研修会を開催しました。

1部では、門司区にある新田医院：新田智之先生に「これからの在宅看取りを考える～最期まで在宅おひとりさまは可能？～」というテーマでご講演いただきました。核家族→高齢者夫婦2人世帯→独居高齢者という流れで、今後ますます独居の高齢者が増えていくと予想されます。家族がいないと在宅で最期を迎えることは出来ないのかという疑問に、本人が希望すれば独居でも最期まで住み慣れた自宅で生活を送ることができるということを事例も交えて分かりやすくご講演いただきました。若松は他区に比べると病床を有する医療機関が少なく、住み慣れた若松で最期を迎えることを望む場合、施設や自宅での支援を充実させるしかありません。施設を含めた在宅看取りを行う上で、円滑な多職種連携をサポートするICTの活用についても詳しく、安全性も交えてご説明いただきました。多職種が在宅看取りという同じ目標の下に支援を行うことで、難しいと思われている独居の方でも希望を叶えることができるということを学ぶことができました。

2部では短時間ではありましたが、新田先生の講演を聞いて、各専門職としての感想や今までの看取りの経験などについて意見交換会を行いました。コロナ禍ですべてできていなかったグループワークを人数を最小限にし、会場及びオンラインを活用し実施しました。多職種が顔を見ながら話すという当たり前だったグループワークが今日では久しぶりという貴重な機会となり、会場では研修会後に名刺交換を行う姿が多く見受けられました。



【普及啓発講演について】



3月は、藤ノ木校区で開催されているサロン石峰とサロン宮丸で「これからの私を考えてみませんか～人生の最後まで自分が望む暮らしはできる～」というテーマで在宅療養や人生会議について市民の方にお話をさせていただきました。元気な今のうちに「これからの自分」のことを周囲の方々に知ってもらうことで、万が一の時に「この人はこんなことを大事にする人だから…」とか「こうしたいと望んでいたから…」等「自分」に代わって代弁してもらえます。だから、最期まで自分が望む生活を送ることができるのです。支援者である私たちも是非今のうちから自分の大切な方々と「自分」についてお話をしてみませんか。



【とびうめ@きたきゅうの登録状況について】



いつも登録促進にご協力いただき、有り難うございます。2月末までの新規登録者数は、35,739名、そのうち若松区内は4,046名となっており、区内65歳以上の高齢者の15.2%にご登録いただけているという割合となっています。マイナンバーカードの活用も謳われていますが、とびうめ@きたきゅうは緊急連絡先の登録も可能です。万が一の際の安心材料として、引き続きご協力をお願いいたします。